



(1) 國學院設立趣意書

皇典講究所開校式（明治15年11月）における初代総裁有栖川宮幟仁親王の告諭には「凡學問ノ道ハ本ヲ立ツルヨリ大ナルハ莫シ」と示されている。これは、物事の本質を究明すること（「本ヲ立ツル」）が学問の道において重要であることを意味する。その後、明治23年7月に皇典講究所初代所長の山田顯義伯爵が公表したものが「國學院設立趣意書」である。日本および世界各国の文化・歴史・国の在り方を研究した上で、日本の在り方を問い直すことの重要性が示されている。

(2) 共通教育プログラム

「自らのアイデンティティの確立」「生涯の学習に必要なスキルの獲得」「主体的な社会参加に必要な知識・スキルの修得」を目的に設けられた全学向けの科目。國學院大學では共通教育プログラムでの学びを通じて、学生が身につけることができる12の能力を「学修成果参照基準（RS：Reference Standard）」として定め、これに基づいて体系的に授業科目を編成。國學院科目群、言語スキル科目群、STEM（Science、Technology、Engineering、Mathematics）系科目群、シチズンシップ科目群、専門教養科目群、ライフデザイン科目群の6つの科目群を設けている。これらを修得することは、専門科目を学修することとあわせて、知的に豊かな生活を送ることを可能とするものといえる。

【人間開発学部】のV方式(大学入学共通テスト利用入試)で新たな出願型を導入

令和8（2026）年度入試より、人間開発学部のV方式で、3科目型（前期）に加えて、5科目型（前期）と、4科目型（後期）という2出願型を新たに導入します。国公立大学との併願がしやすい5科目型（前期）と、大学入学共通テストの結果を踏まえて出願できる4科目型（後期）によって、受験生の選択肢が広がります。

就職活動では「エアライン講座」が大きな力でグローバルな舞台で日本の伝統文化を伝えたい



神道文化学部 4年
神崎 桜子さん
日本航空株式会社
客室乗務員（CA）内定

幼いころから母と一緒に神社巡りをするうちに、自然と芽生えた神道への興味。それを追究したいという思いから、國學院大學の神道文化学部に進学しました。神道を中心とする日本の伝統文化と、世界の宗教・文化を柱とするこの学部の学びは、私にとって、目には見えないものに心を寄せる学びでもあります。たとえば、神職課程の「神社祭祀演習」では白衣白袴を着て祭式作法を学びますが、その所作の一つ一つに神様への敬意が込められていて、それを体感することで、自分を取り巻くものや人に感謝の心をもてるようになりました。

こうして学んだ日本の伝統文化を活かせる仕事は何かと考えたとき、一番に浮かんだのが航空会社のCAです。内定をいただいた日本航空株式会社は、「JALフィロソフィ」の中で「感謝の気持ちをもつ」ことを掲げています。私が神道の学びを通して身につけ、大切にしている価値観と一致していて、ぜひこの会社で働きたいと思いました。

就職活動において大きな力になったのが、大学の「エアライン講座」です。エアライン就職に必要なすべてを学内で学ぶことができて本当にありがたかったです。

日本の伝統文化に対する理解、世界の宗教に関するリテラシー、多様性尊重の精神をはじめ、大学で身につけたことは、航空会社というグローバルな環境で働くうえで確かな土台になると確信しています。

文化を照らすことにもつながっています（針本学長）

「エアライン講座」をはじめ就職支援講座を多数開講

数多くの教員を輩出してきた実績から「教職の國學院」としても定評のある國學院大學。卒業後は教職・保育職はもちろんのこと、幅広い業界に進路が開かれています。

キャリアサポートにおいても業界別の就職支援に力を入れており、多種多様な講座を開講。たとえば航空業界志望者には、「エアライン講座」を大学3年次後期・大学4年次前期の2期開講し、それぞれ複数回の講義を行い、エアライン業界の仕組み、理解、立ち居振る舞い・身だしなみ、面接練習など、始まりから終わるまで一貫してサポートします。さらに、大手航空会社の協力により、空港の裏側や現場見学会も実施。リアルな現場を見ることが業務理解を深めます。大学からの手厚い支援によって学内で格安で受講できる点も学生から好評です。

285種にのぼる就職イベント優良企業との接点を多く提供

こうした業界別講座のほかにも、國學院大學では「学生が自ら動かせる就職活動」をテーマに独自のキャリアサポートを展開。「企業大研究冊子」の刊行や「企業セミナー」の実施など、優良企業との接点を多く提供し、学生のやる気を引き出す仕掛け、キャリア選択の視野を広げる取り組みを推進しており、学内開催の就職イベント・プログラム数は約285種（令和6年度実績）にもなります。さらに、社会で活躍している卒業生や内定を得た4年生から直接アドバイスを受けることができる「OB・OG・内定者アドバイス会」も開催。SNSやHPを調べるだけではわからない、生の情報を知ることができる点も特徴です。

また、国家公務員総合職や公認会計士に挑む学生には、難関試験突破を目指す独自のキャリアプログラム「K・P・L・A・S」を提供。「公認会計士コース」と「国家公務員総合職コース」があり、前者は日商簿記検定3級・2級合格を、後者は宅地建物取引士と行政書士合格を中期目標として設定。各資格を取得しながら1〜4年次まで無理なくモチベーションを維持できる仕組みで、4年連続（令和3〜6年度）で現役公認会計士を輩出。国家公務員総合職も4年連続（令和4〜7年度）で輩出しています。

國學院大學は皇典講究所を母体として設立された大学です。皇典講究所は神道・国学の教育機関として明治15（1882）年に創立されました。明治23（1890）年公表の「國學院設立趣意書⁽¹⁾」には、「国史・国文・国法」の分野を学ぶだけでなく、諸外国の「百科ノ学」も網羅兼修する必要があると記されています。日本文化を学び、他の国の在り方を学び、未来を見据える姿勢は、140年以上におよぶ國學院大學の歴史の中で受け継がれてきたものです。

現在は、文学部・神道文化学部・法学部・経済学部・人間開発学部・観光まちづくり学部の6学部13学科および大学院（文学研究科、法学研究科、経済学研究科）を設置。グローバル化が進む中、物事の本質を問う学びを軸に、世界で活躍できる人材の育成を目指しています。

國學院大學

〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28 入学課 TEL 03-5466-0141 <https://www.kokugakuin.ac.jp/>

今こそ求められる「問い直す」ということ

「問い直す」「学び合う」「共に生きる」。國學院大學は中期5カ年計画において、これら3つを教育目標に掲げています。その中でも最重要項目に位置づけられているのが、「問い直す」です。「問い直す」とはどういうことか、なぜ今改めて「問い直す」ことを掲げるのか、針本正行学長は次のように話します。

「世界を知り、改めて自国の在り方を問い直すことは、國學院大學の教育研究の基本方針となっています。大学の学びにおいて「問い直す」とは大切です。同じ資料を根拠にしながらも自分と異なる意見を主張する学友に出会うことは、とても意義のあることです。与えられた課題について、複眼的な視点から『問い直す』ことにより、自身の考えも深まり、課題の本質に迫ることができるよう。今、世界では多様性の尊重が叫ばれながらも分断が進んでいます。そうした時代だからこそ、人間と人間との絆をかけがえのないものと文化を照らすことにもつながっています（針本学長）

として、自分とは異なる価値観を持つ他者を認め、自身の考えも深化させていくという人材の育成を目指したいと思っています。

また、國學院大學の特色である「すべての学生が日本文化を学ぶ」ことには、共生社会への重要な役割があると針本学長は言います。

「一例として、全学向けの共通教育プログラムの『國學院科目群』では『神道と文化』『日本文化を知る』『國學院の学び』など、日本文化の理解に直結する科目が多数設けられています。日本文化を学ぶことは、他者が育ってきた文化や歴史を尊重する姿勢を育むことにもつながるでしょう」。

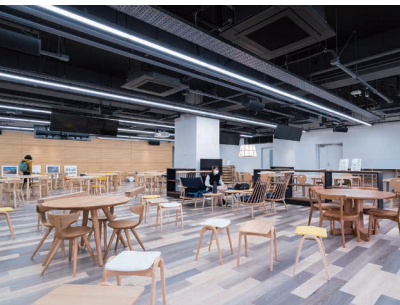
こうした学びの場は学内にとどまらず、令和4（2022）年度には日本研究に伝統を持つベルギーのルーヴェン・カトリック大学と協定を結んで学生交換を推進するなど、海外の大学との連携も強化。国内外から集まった多様な価値観を持つ人と出会い、学び合うことができる環境を実現しています。

地域固有の文化を照らす観光まちづくり学部の学び

日本を知ることから始まる國學院大學の学びは、令和4（2022）年に開設された観光まちづくり学部の根底にも流れています。観光まちづくり学部は、日本各地の地域社会が持つ歴史文化への理解と、地域の環境・社会・経済におけ



モニュメント「翔」が学生を出迎える（渋谷キャンパス）



素材やデザインにもこだわった多目的ホール（たまプラーザキャンパス若木21）